



HOKKAIDO UNIVERSITY

| | |
|------------------|---|
| Title | 研究室報 |
| Citation | 独語独文学科研究年報, 13, 87-89 |
| Issue Date | 1987-03 |
| Doc URL | https://hdl.handle.net/2115/25745 |
| Type | other |
| File Information | 13_P87-89.pdf |



研 究 室 報

講 義 題 目 (昭 和 6 1 年 度)

学 部

| | | |
|-----------------|--|-------------|
| 独 語 学 概 論 | | 植 木 迪 子 |
| 独 文 学 史 概 説 | | 青 柳 謙 二 |
| 独 文 学 | 1 9 世 紀 レ ア リ ズ ム 文 学 | 渋谷 寿 一 |
| 独 語 学 | Deutschunterricht | T. Beckmann |
| 独 文 学 | Opern von Brecht und Weil | L. Jäger |
| 独 語 学 演 習 (1) | 独 語 研 究 の 基 本 問 題 | 植 木 迪 子 |
| 独 文 学 演 習 (1) | Einige moderne Erzählungen und deren Interpretationen | 青 柳 謙 二 |
| 独 語 学 | 記 号 ・ テ ク ス ト ・ 詩 学 (集 中 講 義) | 脇 坂 豊 |
| 独 語 学 | 音 韻 論 の 歴 史 (集 中 講 義) | 川 島 淳 夫 |

大 学 院

| | | |
|-----------------|---|-------------|
| 独 語 学 演 習 (2) | Studien zur Gesprächsanalyse | 植 木 迪 子 |
| 独 文 学 演 習 (2) | Methodenprobleme der deutschen Literaturwissenschaft | 青 柳 謙 二 |
| 独 文 学 演 習 (1) | Thomas Mann : „Die vertauschten Köpfe“ | T. Beckmann |
| 独 文 学 演 習 (2) | Sören Kierkegaard | T. Beckmann |

昭和60年度論文題目

卒業論文

- 朝井 かおる ヴェーデキントの「ルル二部作」について
海老塚 冬 衛 ドイツ語の不変化詞に関する一考察
佐藤 毅 己 「死」について — C. F. マイヤーの《ベスカラの誘惑》から —
佐藤 伸 江 「メルヘン分析」
田 中 慎 語の喚情的機能について — ドイツ語の商標の命名をめぐって —

研究室行事記録

- ◎ 昭和61年2月15日に、昭和60年度卒業論文発表会が、文学部第一会議室で行われた。
◎ 昭和61年9月25日～26日に、日本独文学会秋季研究発表会が、北海道大学学術交流会館で開催された。当研究室ではこれに向けて、春頃より研究会が定期的に開かれた。なお学会での当研究室からの研究発表は下記の通りである。

石橋 道大：「シュトルムの抒情詩理論」

田中 剛：「邪悪な語り手と受容者のストラテジー — G. グラスのダンチヒ三部作を廻って —」

藤本 純子：「ブレンターノの „Rheinmärchen“ について」

最上 英明：「ドイツ語の代名詞化について」

その他に研究発表された会員は、以下の方々である。

塩谷 饒：「Partikel-ja の用法によせて」

小澤 幸夫：「 „Reigen“ の成立と出版をめぐって」

またシンポジウム『Erzählen の諸問題 — パースペクティブを中心にして —』（司会：青柳教授）には、会員の中から瀬川修二氏と石川克知氏が報告に参加された。

- ◎ 昭和61年8月24日～28日に、能登千里浜国民休暇村で行われた第6回夏期言語学セミナーでは、当研究室からは次の発表がなされた。

西川 智之：Freiheit und Willkürlichkeit des Lesens — Die konkreten Vorstellungen beim Lesen von „Die Verwandlung“ —

- ◎ 昭和61年8月に、岩井洋氏がTübingen大学へ、鈴木将史氏がMünchen大学へそれぞれ留学のため出発し、また寺田龍男氏はMünchen大学での留学を終え帰国した。

北海道大学ドイツ語学・文学研究会会則

1. 本会は北海道大学ドイツ語学・文学研究会と称する。
2. 本会はドイツ語学・文学の発展に寄与することを目的とする。
3. 本会は上の目的達成のため下記の事業を行う。
 - 1) 機関誌「独語独文学科研究年報」を毎年1回発行する。
 - 2) 合評会、研究会、講演会等を随時行う。
4. 本会員は北海道大学文学部独語・独文学研究室の教官・院生（学生も含む）ならびにその趣旨に賛同する者によって構成される。
5. 本会員は上の活動の遂行のため所定の会費を支払う。
6. 本会は1名の会長と若干名の幹事をおく、幹事は会計および編集委員を兼任する。
7. 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり3月31日をもって終わる。
8. 本会の事務所は北海道大学文学部独語独文学研究室におく。
9. 本会に賛助会員をおく。

会 員 名 簿

| | | | |
|-------|------|---------------|-------|
| ◎青柳謙二 | 石川克知 | 石橋道大 | 伊藤祐紀子 |
| 岩井洋 | 岩田聡 | 植木迪子 | 梅津真 |
| 江口豊 | 小澤幸夫 | 加藤寛蔵 | 川島淳夫 |
| 川東雅樹 | 岸川良蔵 | 佐藤厚 | 佐藤修子 |
| 佐藤俊一 | ※塩谷饒 | 神久聡 | 鈴木将史 |
| 瀬川修二 | ○高橋修 | 高橋吉文 | 田中剛 |
| 対馬晃 | 寺田龍男 | 中川勝昭 | 西川智之 |
| 藤本純子 | 三浦国泰 | ○最上英明 | 森田一平 |
| 山田恵子 | 山田善久 | Till Beckmann | |

◎は会長 ○は幹事 ※は賛助会員